

記録の中から、CSについての活動や恵みをご報告します。

牧羊ひろば



岡谷教会 教会学校

●はじめに

岡谷教会は、一九二七年に救われた一人の女性に端を発し起こされた群れで、教会としての歴史は一九四九（S20）年以降です。二〇二一年現在、創立72年目となります。

CSについての最も古い記録は一九五一年（はこぶね学校）ですが、当初より、信徒の各家庭が開放され、集会やCS分校に用いられてきた歴史を見ることが出来ます。（参・記念誌「岡谷教会四十年の歩み」）

二〇一三年に新会堂が備えられたからは、教会内のみ活動だと伺っております。

二〇一七年（田中師赴任）以降の

●CS礼拝スタイル・大人といっしょに

二〇一七年当初は1階「いのりの部屋」に於いて、朝9時半より30分のCS活動でした。しかし、その集まりはまばらで、時間通りに訪ねてくる子どもは少なかった（0〜3名）ことを受け、CS教師会で「子どもにも変わることを求めるのではなく、大人が子どもに合わせる柔軟に変化するべき」と話し合いがもたれたように記憶しています。そこで、大人の礼拝の中にCSメッセージを組



礼拝の中で「子どものお話」

み込み、その後分級に送り出し、頌栄の頃に再合流するスタイルへ変更しました。（この変更に至るまでには、CS教師内での話し合いやCSの在り方についての講演会などの経過を経、教会内での皆さんのご理解を得たり、第一礼拝、第三礼拝を設けたりする必要がありました。）



分級の様子

1年ほどかかって子どもは定着するようになり、結果的には良かったと思います。

現在のCSのレギュラーメンバーは、信徒の子女7名

ですが、コロナ下でオンライン組と会堂組に分かれている現状です。また、声掛けの上手な信徒さんによる外部からの出席も数名あったのですが、コロナ下で出席できない課題を残しています。

CS教師は、CSに重荷を覚えてくださる信徒4名と牧師夫人、CS教師をまとめてくださる校長に牧師が就いての構成です。非常態勢になってからは、牧師夫人か、もう一人のCS教師が礼拝後に短く分級を持っている状況です。



サマースクール

●年中行事・CSお楽しみ会について

各行事（進級進学式、イースター、合同キャンプ、サマースクール、CS祝福式、クリスマス）は各教会に準ずると思いますが、その他のものとして「CSお楽しみ会」なる行事が以前より取り入れられています（二〇二〇年以降コロナ下で開催できず）。不定期開催です。

内容は様々ですが、分級の時間を使って散歩をしたり、日曜午後にお弁当を持って諏訪湖周辺の公園などへ出かけたり、室内でおやつや、特別なランチをCS教師と一緒に作ります。

CSの働きは聖書の教えを子どもに詰め込むことに徹しがちですが、子どもの特性を踏まえてもう少し「お楽しみ」の部分が必要ではないかと、私共は考えております。



お楽しみ会 お弁当持って公園へ

「教会に来ると楽しいことがある」と子どもが記憶できると、教会生活も明るくなるように思います。お楽しみ会が子どもにとっての「教会での楽しい思い出作り、リフレッシュ」になってくれることを願っています。礼拝スタイル変更後にいただいた、いくつかの恵みをシェアさせていただきます。

●大人の中で成長する子ども子どもは聞いている

毎週父親といっしょに礼拝に来てくれる、現在5歳と3歳の兄妹がいます。去年あたりから妹さんのほうが、礼拝中祈られる「主の祈り」をとどころ、自然と口にするようになり、この1年の間に、とうとう「主の祈り」ばかりか「使徒信条」もほとんど言えるようになってしまいました。つられてお兄ちゃんも覚え、二人のかわいらしい、けれども力強いお祈りが、教会員を励ましてくれています。

たった週一回、わずか2〜3歳の子どもでも、これほど聞いたままを吸収し身に着けていくのですから、大人たちの子どもに対するふるまい、その責任の大きさを考えさせられます。

●とくべつなおいのり

岡谷教会ではここ数年、礼拝の最後の祝祷のあと、牧師が講壇を降り、子ども一人ひとりの頭の上に手を置いて、その子どもの祝福を祈るようになりました。大変ほんわかとしたシーンで、大人もにっこりと見守っております。

どの幼児も、自分のための「とくべつなおいのり」が大好きなようで、頭に置かれた手に、自分の小さな手を



みんなお祈り

重ねてみたり、あるときは「せんせいだいすき」と小さな声で囁いてくれたりするそうです。

この特別なシーンがあることで、頌栄の奏樂が流れるときにはきちんと前に整列することはもちろん、おおきな声でいっしょに歌ったりすることも自然と覚えてくれました。

CSの形を変えてみなければ、こういう成長には出会えなかったかもしれません。

一歩前に踏み出したわたしたちに、神様がプレゼントしてくださった祝福の一つとして受け止めています。



とくべつなおいのり

●まほうの言葉かけ

筆者は以前、肌や髪がほかのお友達とちがうことを悩む少女にアドバイスした経験から、大人が子どもに対して使う言葉かけのたいせつさを考えさせられています。背景のちがう子どもにあった、背中を押してくれることば、やる気や勇気がでてくることばを見つけられたら、教会に自分の存在意義を覚えてくれるようになることを、示されています。

まだ「奉仕」ということばを理解できていない子どもでも、大人たちの中で「お手伝い」に目覚めることはよくあるかと思っています。

朝、テレビで戦隊ものを視聴してから教会に来た男の子は正義感に燃えていることも多く、「ミッション」「ミッションコンプリート」が大好きです。最近では「今日のミッションはなに？」と聞いてくれることも増えました。オンラインで礼拝に参加する近所のおともだちに届け物をしてくれたり、礼拝の献金係をしたり、掃除機をかけてくれたりと、小学校1年生から、ものすごいヒーローです。

彼らが喜びながら教会に仕えることを覚えつつ、成長

していつてくれたら嬉しいです。

子どもが普段から親しんでいる言葉や文化を、大人が拾ってあげることで、子どもが自信をつけながら成長できるひとつのきっかけになることを、CSに関わる中で教えていただきました。

●おわりに

昨今のウイルス感染症に伴い、教会学校運営も難しい中ではありますが、これからも子どもたちが教会の中で、神様に愛されている特別な一人一人として成長できるように、取り組んでいきたいと願っています。

(田中愛子)



ミッション進行中